

目 次

| | | |
|--------------------------|------------------------|------------------------|
| はしがき | 石塚正英 | i |
| 序 章 歴史総合の目指すもの——その可能性と課題 | | I |
| 1 学習指導要領を受けて | 瀧津 伸 | I |
| (1) はじめに | (2) 学習指導要領の目標より | (3) 歴史総合の内容より |
| (4) 「歴史総合」誕生のもつ意味 | | |
| 2 歴史総合の目指すもの | 板倉孝信 | 6 |
| (1) そもそも歴史総合とは何なのか | (2) 高校生が形成すべき基礎的な歴史の素養 | (3) 歴史学を学ぶ大学生に必要とされる視座 |
| (4) 単なる日本史と世界史の合体からの超越 | (5) 歴史総合はどこに向かうべきか | |
| 3 現状と課題 | 佐久間俊明 | 12 |
| (1) 歴史総合の現状 | (2) 歴史総合の課題 | |

第 I 部 近代化と私たち——歴史総合の分析 (1)

| | | |
|-----------------------------|-------|----|
| 1 近代化——近代は乗り越えられるのか | 新谷 卓 | 19 |
| 2 市民革命と産業革命——近代政治・経済の原点 | 板倉孝信 | 25 |
| 3 国民国家——政治的概念の成立とその展開過程 | 石塚正英 | 31 |
| 4 世界市場の形成とアジアの変容——「大分岐」を考える | 佐久間俊明 | 37 |
| 5 日本の近代化——世界の中の日本 | 川島祐一 | 43 |
| 6 立憲制——なぜ憲法を求めたか | 川島祐一 | 49 |
| 7 帝国主義——植民地支配は「文明化」なのか | 川島祐一 | 55 |
| 8 植民地と反植民主義——宗主国と植民地による相互作用 | 板倉孝信 | 61 |

第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち——歴史総合の分析(2)

- 9 大衆化——大衆を巻き込んだ政治・経済のあり方……………石塚正英…69
- 10 第一次世界大戦——なぜ現代史の起点と言われるのか……………瀧津 伸…75
- 11 国際協調体制——理念先行の功罪……………石塚正英…81
- 12 社会主義と共産主義——ソヴィエト連邦の誕生……………杉山精一…87
- 13 世界恐慌——各国の対策と影響……………杉山精一…92
- 14 ファシズム——人はなぜ独裁を受け入れるのか……………瀧津伸・尾崎綱賀…97
- 15 日本における軍部の台頭——なぜ破滅の道を歩んだのか……………新谷 卓…103
- 16 第二次世界大戦——国際秩序の崩壊と総力戦下の社会変容
……………佐久間俊明・尾崎綱賀…109
- 17 戦後構想——国際連合と国際経済体制……………佐久間俊明…115
- 18 冷戦の開始——米ソ対立の開始と日本の再軍備……………寺田佳孝…121

第Ⅲ部 グローバル化と私たち——歴史総合の分析(3)

- 19 グローバル化——私たちに何をもたらすのか……………新谷 卓…129
- 20 冷戦下の対立——集団安全保障体制の構築と核開発競争……………寺田佳孝…135
- 21 冷戦下の共存——緊張緩和の難しさと平和への取り組み……………寺田佳孝…141
- 22 脱植民地化——植民地独立と残された課題……………瀧津 伸…147
- 23 冷戦下における日本の復興——高度経済成長の光と影……………佐久間俊明…153
- 24 地域統合——国境線を維持したままの一体化……………板倉孝信…159
- 25 「豊かな社会」の中での抗議——「1968年」のインパクト……………佐久間俊明…165
- 26 社会主義陣営の動揺——多極化の進展……………杉山精一…171
- 27 石油危機と世界秩序の変容——「冷戦体制」終結の前史……………杉山精一…177

| | |
|-------------------------------------|------------|
| 28 冷戦の終結——国際政治の流動化と多極化, 日本の将来 …………… | 寺田佳孝 ……183 |
| あとがき …………… | 瀧津 伸 ……189 |
| 人名索引 | 192 |
| 事項索引 | 194 |

凡例

- ・本書が比較検討に使用した教科書は以下の通りである。
 - (1)東京書籍『詳解歴史総合』(以下「東書『詳解』」と表記)。
 - (2)実教出版『詳述歴史総合』(以下「実教『詳述』」と表記)。
 - (3)帝国書院『明解歴史総合』(以下「帝国『明解』」と表記)。
 - (4)山川出版社『歴史総合：近代から現代へ』(以下「山川『近代』」と表記)。
 - (5)山川出版社『現代の歴史総合：みる・読みとく・考える』(以下「山川『現代』」と表記)。
- ・引用した文献については、文中に出典を挙げているが、ブックガイドに掲載したものについては、文中での出典紹介は(著者 出版年：頁数)だけに簡略化してある。